



2021 年 1 月 5 日
飯野海運株式会社

飯野海運株式会社代表取締役社長 當舎裕己は、飯野海運グループ全社員に向けて 2021 年
年頭挨拶を行いました。

2021 年新年挨拶

皆さん、新年明けましておめでとうございます。2021 年の仕事初めに 当たり、一言ご挨拶申
し上げます。

2020 年コロナ禍の中で

例年であればこの挨拶の冒頭で、お正月は如何でしたか、昨年はどのような年でしたか、と問
いかけるのですが、今回は会社にとっても役職員の皆さんにとってもコロナ一色の 2020 年であ
ったと言えるのではないのでしょうか。陸上ではいきなりリモートワークへ移行し、出社せざるを
得ない業務には出社対応をし、海上では乗組員の乗下船に大きな支障をきたし、一部の乗組員は
長期の乗船を余儀なくされました。不動産事業部においては飯野ビルを含む所有ビルテナントへ
のコロナ対応を始めとして、気苦労の絶えない 1 年間であったと思います。大変な状況のもとで
の業務への対応、誠にお疲れ様でした。

更に昨年末には感染第 3 波が到来し、今も予断を許さない状況が続いています。これまで同様、
これまで以上の注意を払いつつ、安全・確実な業務遂行に向けてのご尽力を引き続き宜しく願
い申し上げます。

中期経営計画 ～ 1 年目の進捗 ～

2020 年は我々飯野海運グループにとって新たな中期経営計画 Be Unique and Innovative.: The
Next Stage を発表した年でもありました。今回の中期経営計画では 3 つの重点強化策と 6 つの基
盤整備項目を掲げ、2022 年度までの具体的な道筋を示すと共に 2030 年を見据えた長期的な視野
での当社の目指すべきところ「IINO VISION for 2030」も明示しました。その内容を繰り返しま
すと「時代の要請に応え、自由な発想で進化し続ける独立系グローバル企業グループを目指す。」
というものです。

初年度であった 2020 年には計画の戦略に沿い、大きなタスクフォース(TF)を 2 つ立ち上げま
した。「IINO 環境 TF」と「IINO DX TF」です。環境と DX (デジタル トランスフォーメーシ
ョン)、時代の要請であるこの 2 つのテーマを取り上げ、飯野海運グループとしても環境、DX へ
の全社的な対応・取組みを強化していきます。環境に関しては温室効果ガスの削減を一つの大き
な目標に定めています。環境保全と一言に申し上げても海洋プラスチックごみの削減や大気汚

染防止等色々ありますが、まずは中期経営計画で掲げた数値目標、2030 年に向けて温室効果ガスの排出率を 2008 年比で 40%削減することを当面の目標としました。その為に海運業では船舶の大型化、エコエンジン船の積極導入、重油に比して CO₂ 排出量の少ないメタノール、LPG、LNG 等を燃料とする船を積極的に導入していきます。更に、将来に向けて CO₂ 排出ゼロのアンモニア燃料、水素燃料の研究も進めていきます。不動産業では所有するビルで使用する電力において、再生可能エネルギーによって発電された電力の使用率を段階的に引き上げていきます。飯野ビルには太陽光パネル発電を取り入れたいと考えています。

DX TF においては飯野グループ全体の IT・デジタル化を推し進めることによって仕事のやり方そのものを変え、業務改善、安全運航、ESG 経営を実現していくことを目標と定めました。その為に今までは各部署でバラバラに管理・運用していたシステムを DX TF を通じて全社統合的に管理していきます。特にこの TF の目的の一つである業務改善に関しては、皆さん一人一人に直接関係していることです。既に一部の部署では RPA（ロボティク・プロセス・オートメーション）が導入され、その効果が出ていると聞いております。個々の業務で改善できる点はないか、より良い方法はないかと思いを巡らせながら日々の業務に取り組んでももらいたいと思います。

また、この 2 つの TF は関係各部において各々取り組んでいた課題を全社的に取り纏め、横串を刺し、グループ全体で効率的に一体感を持って取り組んでいくことを基本方針としています。皆さんの部署でも環境や DX に関して、できそうなこと、やりたいことのアイディアをお持ちのことと思います。これからは両 TF との連携を積極的に行いながらアイディアを実現させていって欲しいと思います。どうぞ宜しくお願い致します。

グローバル化とサステナビリティ

さて、中期経営計画の重点強化策の一つとして「グローバル事業の更なる推進」を掲げています。このテーマにおけるひとつの成果として 2020 年前半に英国ロンドンにてオフィスビルを取得し、その運営を開始しました。その他にも様々なグローバル展開を推し進めていく計画ですが、コロナ禍により人の移動が制限されている為、計画は思うように実行できず、停滞を余儀なくされています。しかしながら、ただ嘆いている訳にはいきません。今後どのように世界展開していくのか、その方向性について私は次の様に考えています。

世界の潮流は明らかに環境保全に向かっており、その潮の速さ、強さは日に日に増しています。欧州ではクリーンエネルギー、再生可能エネルギーへの転換が進み、環境を悪化させる事業は非難され、改善を実行しない企業は投資家から見放されていきます。環境改善の取り組みに社会的価値を認め、そのコストを社会全体で負担していこうというコンセンサスが固まりつつあると感じます。

米国に於いてもバイデン政権はパリ協定への復帰を公約していますし、あのエクソンモービルがダウの指定銘柄から外されるという一つの時代の終わりを象徴する出来事がありました。振り返って日本の現状を見ると、菅政権となり漸く温室効果ガス削減目標が欧州並みとなりましたが、官民の対応、取り組み姿勢は欧州に比べるとかなり遅れていることはご存じの通りです。

このような現状認識の下、「更なるグローバル化」と「サステナビリティ（地球上の生態系が存続可能な環境の維持と人類社会の発展を両立させ将来世代に繋げること）」を重点強化策として掲げた我々飯野海運グループは、日本だけを見ていては世界から取り残されてしまうと懸念しています。今後より一層欧州、米州の動向を注視し、その社会への関わりを深め、新しい流れに身を委ね、具体的なプロジェクトに積極的に関わっていきたいと考えています。そうすることにより、我々自身がグローバルな視点で将来を見据えることができるでしょう。

今年、まず、顧客との関係を深め現地での輸送サービスに対応するため欧州での活動拠点を拡充すべく準備を進めています。勿論、コロナの感染がワクチン等により落ち着いてからの話ですが、拡充計画を実行しより海外顧客に目を向けた戦略を展開するつもりです。このグローバル展開にあたっては皆さん一人一人にそのチャンスがあり、そしてそのチャンスを各人が活かし、飯野グループ全体のより一層のグローバル化に繋げていければと思っています。

役職員へのコミットメント

さて、最後にもう一つ中期経営計画で掲げたステークホルダーへの約束である「IINO COMMITMENT」の内の役職員の皆さんへのコミットメントについてお話したいと思います。役職員の皆さんへは「働きやすさ、働き甲斐および自己実現の機会を提供すること」を約束しました。働きやすさについてはコロナ禍の中、なかなか思う様な成果が出ていませんが、引き続き取り組んでいきます。

皆さんにとって自己実現とは何でしょうか？飯野グループの一員として働いていく中で、一人一人にとっての自己実現とは一体何なのかを一度考えてみて欲しいと思います。それを「新年の抱負（Ambition）」としてみて下さい。中期経営計画の目標と皆さんの考える自己実現を繋ぎ合わせていき、ご自身の自己実現が達成されていくことを心から望んでいます。奇しくも今回のコロナ禍によるリモートワークによりコミュニケーションの大切さというものをより一層意識するようになったかと思います。トップダウン、ボトムアップの両方向からよくコミュニケーションを取り、今まで以上に風通しの良い雰囲気を持つ飯野海運グループとしてこれからも一丸となって進んでいきましょう！

結びにあたりまして、

グループ全船の安全運航、所有ビルの安全無事故

グループ各社の一層の繁栄

グループ役職員の皆様ならびにそのご家族のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

以上